

衆議院科学技術・イノベーション推進特別委員会ニュース

平成 23.5.19 第 177 回国会第 4 号

5 月 19 日（木）第 4 回の委員会が開かれました。

1 科学技術、イノベーション推進の総合的な対策に関する件

- ・玄葉国務大臣（科学技術政策担当）、笹木文部科学副大臣及び政府参考人並びに参考人に対し質疑を行いました。
（参考人）原子力安全委員会委員長 班目春樹君
日本原子力研究開発機構理事長 鈴木篤之君
- ・参考人から意見を聴取することに協議決定しました。

（質疑者及び主な質疑内容）

平 智之君（民主）

- ・福島第一原子力発電所には、現在どれくらいの量の放射性物質が残っているのか。また、その量を常に評価し、公表すべきと考えるが、政府の見解を伺いたい。
- ・東京電力は、汚染水を除染し、再び冷却水として循環させることを計画しているが、除染時に発生する超高濃度の汚染物質の処理対策は確立していない。この計画は破綻しているのではないか。
- ・広い範囲で放射性物質の拡散予測ができる W S P E E D I システムにより、各地の放射性物質の濃度や被曝線量を計算し、精度が落ちてよいので、目安として公表すべきと考えるが、政府の見解を伺いたい。

石 森 久 嗣君（民主）

- ・菅内閣総理大臣の「安全性が確認されれば原発の再稼働を認める」旨の発言（平成 23 年 5 月 18 日記者会見）についての玄葉国務大臣の見解を伺いたい。
- ・電源三法交付金や、使用済み核燃料の処理には、どれくらいの費用がかかっているのか。このような費用も、発電コストに含めて、他の太陽光等の電源と比較すべきではないのか。
- ・土壌の放射線量調査を、各自治体任せにせず、国が責任を持って行うべきと考えるが、政府の見解を伺いたい。

遠 藤 乙 彦君（公明）

- ・本委員会設置の趣旨は、科学技術の国際競争力低下を踏まえ、国会で重要な国家戦略の提言や情報発信を行っていかうというものであるが、これに対する、玄葉国務大臣の所見を伺いたい。
- ・東日本大震災は、多極分散型ネットワーク社会への転換、コミュニティの再認識、エネルギー戦略の見直しなど、日本人の価値観の転換をもたらすと考えるが、玄葉国務大臣の意見

を伺いたい。

- ・我が国の科学技術政策の課題として、イノベーションモデルの戦略転換が必要であると考え、玄葉国務大臣の所見を伺いたい。

吉 井 英 勝君（共産）

- ・原子力発電所の内部電源確保に関して、これまで全国の原子力発電所で何件のディーゼル発電機の事故が発生しているのか。また、福島第一原子力発電所事故について、2号機だけでなく、1、3、4号機についても、緊急時対策支援システム（ERSS）による事故進展予測を公表すべきではないか。
- ・高速増殖炉「もんじゅ」の開発は中止し、担当研究者は元の所属機関において廃炉の方法等を研究してもらおうべきだと考えるが、玄葉国務大臣の所見を伺いたい。
- ・福島第一原子力発電所の事故に際し、原子力安全委員会はいつイベントや冷却注水の必要性を判断したのか。

阿 部 知 子君（社民）

- ・科学技術政策の実施のためには、予算の確保が非常に重要であるが、玄葉国務大臣はどのように科学技術関連予算を確保していくつもりなのか、見解を伺いたい。
- ・福島第一原子力発電所事故に関連して、放射性物質の地表線量の測定や汚染された土壌の改良を早急を実施すべきではないか。
- ・再生可能エネルギー源を用いて発電された電気の買取を電気事業者に義務付ける「電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法案」を今国会内に成立させるべきではないか。